

会 議 録

1 会議名

平成26年度第5回谷浜・桑取区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【自主的審議事項】

谷浜・桑取区における子育て支援について（公開）

3 開催日時

平成26年10月22日（水）午後7時00分から午後8時25分

4 開催場所

上越市立公民館 直江津地区館 谷浜分館

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員： 安達ユミ子、小林和代、小林奎一、齊藤 豊、高橋誠一、坪田 剛、
荷屋和夫、平野宏一、横田正美（欠席1名）

・事務局： 北部まちづくりセンター：関川センター長、荒木係長、星野主任

8 発言の内容

【関川センター長】

只今から平成26年度第5回谷浜・桑取区地域協議会を開会します。本日の出席人員は9名です。上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席がありますので、会議が成立していることを報告します。はじめに高橋会長から御挨拶をいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

【高橋会長】

お忙しいところ、御苦勞様です。今日は、これまで課題にしていた地域の活性化をどうするかということで、子育て支援をしながら少子化対策に向けて人口を増やしていければいいのではないかと、地域外から住み移ってきた方の御意見を聞きながらやってきた訳です。地域に人口を増やすというのは、なかなか難しいことで全国的に

も少子高齢化の中でどう地域を元気づけるかが大きな課題になっています。今日はこの課題に対して、ある程度の時間を割きながら、自由な意見交換が出来れば一番いいのではないかと考えておりますので、よろしく申し上げます。

【関川センター長】

ありがとうございました。

それでは同条例第8条第1項の規定により、議長は会長が務めることとなります。高橋会長お願いします。

【高橋会長】

それでは議題に沿って進めたいと思います。今日は、自主的審議事項であります。谷浜・桑取区の子育て支援をどうするのかという大きな課題がありました。当初は、安達副会長から提案をいただきながら、1回や2回の議論で済む問題ではないということを中心に置きながら、子育て支援をどうするのかということでやってきた訳です。幸いにも立派な保育園も造っていただいて、保育園から小学校、中学校が一か所にまとまっているという意味では、地域において、ハードの面では、一定の整備が進んでいるのではないかと思います。やはり、そういうものを地域の皆さんで活かしていくということが大変大事だと思います。当面、10月25日に小学校と中学校が初めて合同文化祭を行うという意味では、小学校と中学校の先生方も含めて一体となって物を考えていこうとなっております。中学校の運動会にも参加させてもらったのですが、生徒の数が二十数人しかおらず、中学校の運動会の存続そのものが危ぶまれる中で、今年は運動会に地域の皆さんからも参加いただこうと、各町内会長さんからの御尽力により、地域の皆さんから盛り上げていただいたという経過があります。今日は、そういうことを含めながら、いろいろな意見を自由に出していただければありがたいと思っていますので、よろしく申し上げます。

では、資料を参考にしながらいろいろな意見を出していただいて、これからの活動に繋げていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

本日の会議録の確認ですが、小林和代委員にお願いします。

それでは、事務局より説明をお願いします。

【星野主任】

今程、会長から説明がありましたが、安達副会長から一昨年の7月に御提案いただいて、8月の協議会で自主的審議に決定した後、10月の協議会で問題点などについてフ

リートークを行いました。2月に当地域へ移住されてきて、現在、子育て中の方を2名お招きし、お話をお聞きしました。昨年度に関しましては、子育ての問題を考えるにあたって、課題、原因、対策等を委員の皆様から提出していただき、一覧にまとめたものを基に協議してきました。本日は、その継続として、皆さんから協議していただきたいと思います。自主的審議事項につきましては、委員さん同士の協議によって進めていただくものですので、進行については会長にお任せしたいと思います。よろしくお願いします。

【高橋会長】

事務局から資料の整理をしていただいたところですので、自由に意見を出していただきたいと思います。今日の議題はこれだけですので、遠慮なく意見交換をしたいと思います。

では、最初に提案していただいた安達副会長からお願いします。

【安達副会長】

おいそれと子どもが増える訳でもないですし、問題としては大きいと思うのですが、小学校も中学校も保育園もとても頑張ってくれています。保育園は今、通っている子どもは33人。1歳4か月、1歳5か月の子どもさんもいます。延長保育もしているので19時までやっています。子育てひろば、保育園に入っている子どもではなくて、おばあちゃんと来たり、おじいちゃんと来たり、ママと来たりする子どもは今、大体7組はいらっしゃいます。開園した9月には春日山とか直江津のほうから来られる親子もいて、「いっぱいすぎて大変」という感じだったのですが、今は落ち着きました。大体、7組くらいの親子さんが毎日、午前中ですが利用されているようです。だけど、それだって、0歳から6歳までみんな併せても50人いないというのがこの地域だと思います。小学生も1年生から6年生で今年は58人なのですが、来年の児童数は、新1年生が今年の6年生よりも多いため60人になり、今年よりも人数は多いのですが、子どもの数が減っていることは確実です。ですから、子どものことだけ見ていてもしょうがないのかなという気はしています。本当にどういうふうになりたいと思うのか、なったらいいのかと思うこともそれぞれの立場があるのでなかなか難しいのかなと思います。

10月25日に小学校と中学校が合同の文化祭をします。午前中は、小学校で小・中学生の学習発表があります。午後からは中学校で、小学生が中学生と一緒に体験学習を行います。9つくらいの講座があるので準備しているところです。子どもさんと

保護者の何人かは中学校へ行ってしまおうのですが、午前中から地域の人に子どもたちの発表を見てもらいたいということで、春先に提案した、たにはま保育園と小・中学校の視察をして住民交流会をしようという事業を、文化祭に併せて実施させてもらうことで準備が進んでいます。教育環境を見てもらいたいという趣旨をお話しまして、「学校行ったことないし、じゃあ行ってみるわね」と言ってくれる人がお年寄りを中心として100人くらい、いらっしゃるかなというところです。そういう中で、ステージ発表で民謡や音頭を踊るとか、コーラスで出る人達がいてくださって、皆さんに「中学校の子どもは26人です」と言う「信じられない」と言うのです。大体の人が知らないということでした。「あんなにいい学校があるのにそれくらいしか子どもがいないのですか」ということをあちこちで言われました。やっぱり本当に子どもたちが少ないということ、少ないだろうとは思っていても具体的な数までは知らない人が多かったのだなと思いました。そういう教育環境を見てもらうことが、今の段階なのかなという感じです。

【高橋会長】

私自身も先日、中学校の会議があつて参加させてもらったのですが、子育て支援の抽象論だけではなくて、中学校が無くなるのではないかとこの話もちらほら出ているのです。では、春日中学校と一緒にするのか、直江津中学校と一緒にするのか、名立中学校と一緒にするのは大変だなという話から、中学校が無くなったら、ますます地域に住む人が考えてしまうのではないかと感じてしまうものですから、子育て支援からいろいろ考えながら、小学校、中学校の在り方まで具体的に考えていかざるを得ないのではないかとこの気がしています。そういう中で、地域協議会として学校後援会なりPTAなり、いろいろな人たちと相談しながら、これからの谷浜・桑取地域の教育の問題も含めて子どもたちがどう育っていくかを考える時期に来ているという気がします。こうした教育の問題も今までの子育て支援に含めながら、発展させていければいいのではないかと私自身は思っております。ぜひ、委員の皆さんからもいろいろな意見を出していただければと思います。意見だけではなくて、動きとして作っていければ良いという気がしますので自由な意見交換をお願いします。

俗に云う有間川、長浜の人は電車に乗って直江津中学校へ行くとか行かないという議論が出来るけど、高住から桑取の皆さんにとってみれば、駅に出てくるまでも大変です。そういった意味では潮陵中学校を無くすというのは大変な問題になるという気がするのです、ぜひそのことを含めて意見交換できればと思います。

【平野委員】

資料で子育て支援に関する意見集約表が出ていますが、これでまだ不足なのか、まだあるのか、その辺から具体的にやらないといけませんよね。皆さんにどうですかと聞いたって、誰に聞いているのですかとなってしまいます。

【高橋会長】

確かに、今まで子育て支援は、どっちかと言うと抽象的な話ですよ。

【平野委員】

この資料にこれだけ出てきているのだから、出来る事からやりましょうとなっているのだよね。それは確認されているのだよね。そしたら、この中から出来ることは何かと選ぶという方法でやらないと、子育て支援に関する意見は無いですかとか、どうしたらいいのでしょうかということばかり言っても前に進みませんよ。もっとよく読んできて、この中から1つ選ぼうではないかということです。「私はこれがいいのではないかと思う」というような提案をしてもらわないと、「どうでしょうか」と言われても一緒のような気がします。

【高橋会長】

これは、会長、副会長が提案して皆さんにどうですかということではなくて、みんなで考える会議ですから。

【平野委員】

みんなで考える会議だから、会長提案があったほうが良いということが私の意見です。

【高橋会長】

私自身はいろいろ今まで議論した上で、では、どうするのか、平野委員が言われていることに対して私自身の危機感とすれば、具体的な問題として、今年、中学校へ行ったのが5人ですよ。中学1年生は5人しかいないわけです。単なる子育て支援という言い方ではなくて、具体的な活動を、小・中学校をどうするのかということです。私自身は具体的な話を皆さんにしているのだけれども、平野委員が言われたようにこの中の課題で事を進めるべきではないかということであればそれを含めてお話したいと思います。

【平野委員】

小・中学校の問題をどうするかということは、人間そのものに掛かってきているわけですよ。子どもの数を増やすにはどうしたらいいのかという論議をして、そのやり方としてこの資料の中に入っていると思うのです。だから、私は検討した結果、今までや

ってきた中でこれが最良ではないかという提案もいいですよという話をしているのです。前に戻ってやっても、前に進みません。学校の問題は子どもの数で問題が起きているのですから。では、数を増やすにはどうしたらいいのかということから話を進めないといけない。学校と言ったって、学校が無くなるというのは小学校でも中学校でも保育園でもそうではないですか。数が少なくなってきたから統合されたわけではないですか。私も各地区の保育園の人間の数が20人もいれば統合はしなかったと思います。それを増やすにはどうしたらいいのかということに絞って話をしないと、学校のことはみんな危機感を持っています。だから、学校をどうするかというよりも、子どもを増やすにはどうしたらいいのかという話をして、前に進めないといけないと思います。

【高橋会長】

基本的には、いかに子どもを増やすかという問題と、当面する問題と2つあると思うのです。だから、できるだけ多くの人からこの地域に喜んで住んでもらうため、子どもが多くなることを長期的に考えなくてはいけない問題と、中学校が無くなったらどうするのかという当面の問題も含めてみんなで危機感を持って考えていかないと、子育て支援ということだけでは、なかなか議論が深まっていかないような気がします。その辺は平野委員が言われたように原則的なことも含めて当面する問題をどうするのかということを考えていただければいいのかなと思います。どうでしょうか。

市街化調整区域の関係で今、一步前進して、家を作り易くなったというのは、今年の4月からでしょうか。法改正の関係で言えば、今まで、家を作りたくても作られないではないかという議論があったのは、少しは改善されているのです。もし、そういう点で外部の人がこちらに来て、土地もそんなに高くない所で家を作ってという議論がもしあれば推進できると思います。

【安達副会長】

おいそれと子どもの数が増える訳でもないし、中学校が本当にどうしようということが、具体的になっているのなら、もう少し、学校後援会、PTA、保護者の意見とかを、聞いたらどうだというような提案も有りかなと思います。統合の問題とかを誰が口火を切るかということが一番の問題なのです。子どもたちの教育環境ということで考えていって、部活も出来ない、運動会も出来ないといったら、小さくたって環境良いし、空気良いし、良いよねって子どもたちには言えないと思うのですよね。それは、この地域に住んでいる大人のエゴになってしまうのですね。子どもたちがどうしたいのか、親がど

うしたいのかとか、そういう意見をどこかでまとめてほしいという提案を地域協議会がしていくのも有りかなと思いますが、どうでしょうか。

【高橋会長】

先日、中学校で学校運営協議会があって、私はそちらの委員もさせてもらっているのですが、このまま少子化が進んでいって、中学校も複式学級になってくるとその先に行きつくのは存立の問題だと校長先生を始め、先生方の管理者としての認識なのです。そこまで具体的になってしまってからどうするのかという議論をされるのはいいのですが、その前に地域がきちんと声を挙げてもらうということが大事だと思うのです。最近、新聞で小中一貫校の話が出ている関係で、そういう問題も地域から関心を持ってもらいたいというのが、学校の先生からありました。今後、必要であれば教育委員会がどういう考えを持っているのかということを知って、地域のそういう活動の推進役になるのも1つの方法かなと私個人では思っています。

【横田委員】

具体的にすぐどうこうという話は分かりませんが、今現在、中学生が27名、小学生が60名弱、保育園が30名くらい。この数字だけ見ていけば、桑取の例から見てもまだしばらくは大丈夫だと思うのですが、逆に例えば、谷浜小学校から潮陵中学校へ行かずに町場へ行くというケースがあるのですよね。実際のところ、長浜から直江津方面はそんなに遠くないではないですか。その辺のところは1つの問題ですよね。そうすると結局、子どもたちが中学校までこの地域にいないで、町場へ行ったら、おそらく先は、地元から通うのか、帰ってくればいいけど、地元から出てアパートなり、家を建てるという形でそのまま出ていくというイメージがあります。教育の問題とか親御さんとか子どもたちの考え方もあるだろうけど、出来れば中学校ぐらいまでは地元の中で過ごし、なおかつ、勉強やクラブだけではなくて、地域の行事への参加とか他のところとふれあうことが大事だと思います。中学生が卒業する時にこの中学校で良かったと、子どもも親もそう感じてもらえるような、町場では無いような、人数が少なくてもその分いろいろな経験ができるような形が残せれば、いずれ、親の世代になってきてもこの地域に残って戻ってくるというのがあるのではないかと思います。私たちの同級生も半分以上は外へ出てしまっています。あの時は仕事が無い、冬場は大変、交代勤務の仕事で絶対に通えない。そういうのが重なって外へ出て、独立して家を建てるのがステータスみたいな感じがありました。今となっては、市内であれば条件の差なんてそんなに無いですし、

子どもが云々という問題はあるので、その辺をもう少し地元の魅力を含めて、地域で学校、生徒を支援するとか、交流を持つということを試みても良いのかなと思います。

【齊藤委員】

今、当面の話をしていると非常に話が暗いですよね。出来るか出来ないかは別として夢構想でも話したらどうでしょうか。私は奥に住んでいて通勤等に非常に不便です。でも、谷浜、有間川を見ると非常に私たちはうらやましく思っています。谷浜は、冬、雪がほとんど無いですよね。そういった条件を活かすということは出来ないのかなと常々思います。それと、たにはま公園を整備する時に土地を提供した地権者に、「公園を造ったって誰が来るの」と言ったのです。むしろ、奥から通勤に大変だから、家を建て替えるなら町場へ出ようというのであれば、宅地造成をしたらどうかといたら、そういう条件ではないと怒られました。奥にいる人がわざわざ直江津まで出て家を建てるのではなくて、この近辺で住宅を建てられる土地を提供できる場所を作れば、当然、桑取・谷浜で一緒であれば人口が減る訳はないのですよ。そういう形で、ここに、何とか定住できる方法を考えていくとか。奥は奥でもいいのですが、やはり、長浜、谷浜が活性化すれば、奥も活性化すると思うのです。むしろ水族館を長浜辺りに持ってきてくれればいいと思いました。いろいろな面で地域の人がここでこういうイベントをしているとか、そういう目玉も作るということはどうですか。例えば、以前、たにはま公園で神楽をやりましたよね。継続するのかと思ったら1回だけでした。奥でやってもいいですよ。あれだけの広範囲でやったのだから、何回かやれば、いろいろな地区外の人が行ってみたいという発想が起きてくるのではないのでしょうか。

あと、これから鮭が獲れます。ここでは名立のように掴みどりをしていないですよね。あれがなぜ出来ないのかなと思います。

【安達副会長】

鮭に関しては、ずっと補助事業だから出来ないって聞きました。名立は国からも県からも貰っていないから楽しくやれるのだと思います。

【齊藤委員】

そういうものをまた今の地域活動支援事業で支援をして何かをしていただくという形で応援していくのはどうでしょうか。

【高橋会長】

確かに、有間川では、結局、組合員がものすごく手間なのです。名立はそれをやるけど、谷浜・桑取の皆さんはとても自分達では出来ないということです。有間川から海までの間が狭いものですから、そういう行事が出来ないようです。でも、やる気があれば出来るのです。

【齊藤委員】

奥でくわどり収穫祭をやったけど、結局、事務局体制なのです。今回、こういう形で小学校も、谷浜と桑取が一緒になったのであれば、谷浜・桑取合同収穫祭とか、そういうものをみんなで考えていくとか、谷浜・桑取一体で同じ作業をすれば、親睦が図れるのではないかと思います。

【高橋会長】

先程言った神楽は、地域活動支援事業でお金が出ているので舞台はあるのです。かみえちご山里ファンクラブの皆さんに管理してもらっています。神楽をやった時は名立漁業、筒石漁業の魚を振舞ってもらったのです。そういうものの継続を確かに何とかしていきたいと思っています。やはり、かみえちご山里ファンクラブの皆さんから桑取谷で頑張ってもらっているということは1つの財産なのです。これをどう地域が支えていくかが大事だと思います。

【平野委員】

小さな話ですけど、この地域に住宅地を作ったほうがいいのではないかと話したら、怒られたというのは誰にですか。

【高橋会長】

公園を作る為に余った土を上越火力発電所にあげるんだという構図です。国からの補助金というのは公園を作る為にもらっているのです。それで、余った土を上越火力発電所にあげたという発想で地権者に説明した訳です。公園として国の補助金を貰っているから一切、転用は出来ないという発想なのです。

【平野委員】

では、怒ったのは市役所の職員ということですか。

【齊藤委員】

違います。

【平野委員】

近い将来、少子化で、中学校も統合だと、数も増やさなければならないと、住宅地を

作れば人を増やせるのではないかと、そういう発想が浮かばなかった人なのですね。

【高橋会長】

先程、水族館を持ってくればいいではないかという話が出ましたが、当初もそういう話がありました。谷浜へ水族館を持ってくれば、あれだけ広いのだからいいのではないかと、という提案だけがありました。谷浜海水浴場だって良くなるからという話もあったけど、結果的には無くなりました。

【齊藤委員】

私も勤めは高田のほうですが、どこに住んでいるのかと聞かれた時にゆったり村の近くだと言うのだけれども、それ以外にPRする場所が無いのですよ。だから、そういう場所があれば、自分が外へ出ても、私はここに住んでいるのだと言えると思うのですよ。

【高橋会長】

ゆったり村も冬季に休むと言っていたのに休まないでなんとか頑張り始めて、最近、少しだけですが利用者が増えているみたいです。

くわどり収穫祭は毎年、実行委員長を中心に頑張ってもらっています。今年は11月9日に開催するというので、地域協議会に対しても御案内をいただいておりますが、地域活動支援事業が無くなれば事務局はますます大変になって、チラシも入れづらくなりますよね。

神楽については地域活動支援事業で、いろいろ備品を揃えているので、実施しようと思えば出来る体制があるので、関係者の方に話をしながら恒例にしていけばいいと思います。

地域が元気になる具体策があって、人が住んでくれば一番いい訳ですから。

【平野委員】

やるということを決めないとPRしようがないですよ。

【高橋会長】

谷浜海水浴場の利用人数だけで言うと、県内有数の海水浴場なのです。今年は17万人ですよ。珍しいくらい多いのですよ。

谷浜海水浴場とゆったり村とをリンクさせて元気出さないといけないよね。

【横田委員】

直接PRしなくても20万人近くの人に来る訳ですからね。夏場以外でもその10分の1がリピーターになるだけで全然違いますよね。

【安達副会長】

明るくなるように桑取・谷浜のホラ吹き大会でもしますか。そういうのがあれば具体的なものが出てくるかもしれません。

【平野委員】

現実を考えると暗くなる一方ですよ。

【安達副会長】

でも、中学校のことは当面、考えなくてはいけません。

湯沢町でやっている小中一貫校というのは、一つの文化圏の中で人口も子どもたちの数もいてということだから、この地域とは基本的に違うところがあるのかもしれないけど、話を聞いてみるというのも一つでしょう。どこかと統合するにしても明るい気持ちで子どもたちが過ごせるようになればいいのだと思います。離れた地域で子どもが27、8人というのならそれでいいと思うのですが、合併前上越市の中での人数だから、潮陵中学校にこだわっているということが逆に批判されることになるかもしれません。

【小林奎一委員】

実際に子どもたちや保護者はどう思っているのですか。皆さんが、少数がいいというだけではなくて、聞くところによると、このままではかわいそうだからどこかと一緒にやりたいという人もいますよね。私自身も20何人の少人数で、これから社会に出ても何も苦勞を知らないのは、地元にずっといればいいだろうけど、少しは社会に出て揉まれないとかかわいそうだと思います。ここだけではなくて、上越市全体で考えるほうがいいと思います。先程、齊藤委員が言われたように公園の所ですが、これから、年寄りだけの住まいが出てきます。そういう人たちが住める住宅を造って、少し土地の手入れをすれば畑も出来ますし、井戸からは水も出ますから、少し元気を出してやればいいと思います。その人がいなくなったら、また次の人に移ればいいと思います。それくらいしないと、今、皆さん言っていますけど、まだ途中なのですよね。まだまだ考えなければいけません。

【高橋会長】

桑取の田んぼは基盤整備して、奥へ行くと田んぼがきちんとありますよね。桑取へ行くと整備をされていて桑取米でやっている人もいる訳ですよ。本当に住宅地を作るのであれば、公園の所でなくても、そこら辺で作る気になれば、高住のところだって平らなところがある訳ですから。

【平野委員】

田んぼの中に家を作るのにこだわっている感じがあるのだけれども、あちこち見ると住宅地だって空き地ばかりではないですか。

時期が早かったのかどうか分かりませんが、農地を宅地にすると住みよいまちづくりが出来るといふことが書いてあるけど、そんなものではないと思います。農地なんて放っておいて、今空いている雑種地だとか宅地だとか、そういう所になんとか、建ててもらえるような方法のほうが早い気がします。

【小林奎一委員】

桑取は基盤整備したから、土地の所有者と更図はしっかりしているのだけれども、そこまでの間の土地は明治26年のままで、それを勝手にやり取りしたり、2枚を1枚にしたりしているから、所有者も正直言って更図が分かりませんし、売買出来ないのですよ。

【平野委員】

農地を売買ではなくて。

【小林奎一委員】

建てる為には所有者もはっきりしないのです。

【平野委員】

空き家が古くなっていても、相続がうまくいかず、どうにもならないという所もある。それを誰がアクションを起こしてやってくれるかということが、今の相続人がどこにいるのかも分からない。誰のものかということも分からない。

農地を宅地にするという問題だけを取り上げるのは次元が違いますよね。

【高橋会長】

今まで、県道沿いの田んぼで家を作りたいと言っても作れなかったのが、今年の4月からは出来るようになったので、そういう意味では、家を作り易くなったのですが、どんどん来てくれる訳ではないですよ。

でも、今回、有間川で1件だけ若い人が町内の、たまたま車庫とかそういう土地だったから、そこを整備して家を建てたので、有間川は喜んでます。

【平野委員】

そういうのは長浜でもあるけれども、それを喜んで、今の話、26人を何とか増やすとか、小学校の58人を何とか増やす方法には繋がらない。

【高橋会長】

1人でも2人でも増えればいいではないですか。

【平野委員】

そういう目標値を作る必要もあります。1年に1人とか2人にしましょうかとか。それが具体案です。

【高橋会長】

我々がここで協議するよりも、やっぱり日常的な活動の中で1件でもそういう若者が地域で家を作るというのは、特に有間川では画期的なことですよ。だからそういう点では、桑取谷の良さを見直してくれたのだろうなど、私は自分なりに理解しています。

【安達副会長】

中学校のことについて、学校にお願いするのか、教育委員会にお願いするのか分からないのですが、当事者、PTAの人とか子どもたちとか、そういう人たちに意見を聞いてみたらどうなのかという提案を地域協議会が出来るのか、していいのか、する必要があるのか、そこの辺りはどうなのでしょう。

【高橋会長】

地域協議会の自主的審議事項として小中の教育の問題を取りあげているわけです。

【小林奎一委員】

ただ、推定でいうのではなくて、そうなったら、子どもたちのアンケートを取って集約しないとイケませんよね。

【安達副会長】

そういう具体的な事をしてほしいという提案をするということが大事かなと思います。

【小林奎一委員】

そのとおりに取られるかは別にしても、参考意見としてほしいです。ただ、逆にそうなったら、学校の合併が早くなってしまうかもしれません。

【高橋会長】

市の方針として、そうしますと言われればそうなるだろうと思います。

【小林奎一委員】

いずれやるなら早めにやりましょうという話になります。

【安達副会長】

小学校から全員が潮陵中学校へ行くのではなくて、他の中学校へ行く人も、桑取にだって過去にいました。だから子どもたちに聞いてみる必要があるのではないかという提

案をしてもいいかなと思います。

【高橋会長】

地域協議会の自主的審議事項として、谷浜・桑取における教育環境をどうするのかということできちんと市に考え方を質して、こういうものにしてほしいというものがあれば、地域の代弁としてできればいいと思います。

【小林奎一委員】

その前に、当事者の意見を聞いて、集約しなくてはいけないと思います。

【高橋会長】

中学校では、校長先生も危機感を持っていて、地域から声を挙げてほしいということ为学校側としては持っている。PTAがいいのか、後援会がいいのか、そういうものも含めて議論を進める必要があると思います。

【小林奎一委員】

私は子どもたち自身だと思います。後援会には悪いですけど、残したいというだけだと思います。子どもたちを試してみれば合併するべきですし、上越市一帯ですから、それなりの教育環境です。授業を受けられていろいろなスポーツも出来て、いろいろな行事が出来るような形がいいと思います。

【安達副会長】

子どもたちの意見を聞いてほしいのだけれども、というような提案でいいのでしょうか。

【高橋会長】

当面、子どもがいる家はいいだろうけど、まだ小学生がいる家にとっては、中学校はまだまだ先みたいに思うだろうし、その辺だよな。

【平野委員】

少しは自分の意思が言えるようなくらいの生徒ではないと難しいです。

【齊藤委員】

でも、少数だから、いざ、社会に出たら何も発言が出来ない。桑取もそう思ったのですが、どうも違うらしいのです。大きな人数のところへ行くと、発表をするにしても、大会にしても、選ばれた人しか出来ない。でも少数だと、誰でもやれるようになっているから、逆に、今、皆さんが言ったようなことだと思っていたら、先生が言ったのだと思うけど、「どこへ行ってもちゃんと発表していますよ」と言うのです。それは、子ども

たちの意見なのか、学校の先生にもそういう状況を聞いていただければと思います。

【高橋会長】

確かに、潮陵中学校の生徒の学力なり、発表力なりを含めて、決して劣ってはいないので。国語と数学だったか、その評価が全国平均をだいぶ上回っているのです。そういう意味では、いいのだけれども、だからといってその学校が無くなって、どこかに行きなさいと言われた時のことを考えると、何とか、残せるものは残して、きちんと教育が出来ないのかなと頭にあるものだから、余計に、小学校と中学校を一緒にしてもいいから、中学校を残せるものなら残していかないといけないと思います。事務的に考えて、上越市全体なのだから、春日中学校へ行きなさい、直江津中学校へ行きなさいと言ってしまうと、逆に子どもたちがかわいそうかなという気がしているのです。

【小林奎一委員】

いずれにしても、子どもたちに聞いてみれば分かることですね。

【高橋会長】

それは、どうなのでしょう。当事者なのか、地域全体でそういうものを考えていくのか。

かつては、桑取は、小中一貫校みたいなものだったから。それが、桑取では、数の論理で成り立たなくなってしまって、谷浜小学校と一緒に、中学校も潮陵中学校と一緒にになった訳です。この論理から行くと、どこかと一緒になるということはやむを得ないと考えるのか、少なくとも、谷浜・桑取という地域を大事に、何とか、最小の学校基盤を確立するというか。

本来、この地域協議会も市の提案では、桑取区地域協議会、谷浜区地域協議会という提案だったのです。それが、たまたま、私が町内会長をやっていて、町内会長協議会でその提案があった時に、桑取は12人も委員を選抜してやっていけないといった議論の中で、町内会長協議会が一緒になってやりましょうとなりました。普通は、「桑取・谷浜」と言うのです。今までこの地域は「桑谷（そうや）」とあって、桑取が先なのです。だけど、この協議会の名前だけは、谷浜を先にしてくださいというような話もあったりして、「谷浜・桑取区地域協議会」というふうに決まったのです。そういう点では、昔の旧制度にあやかると、桑取は桑取として、地域の存在があったのが、こんなふうになってきている訳です。

当面する兼ね合いとしては、私も良く分からないのですが、教育特区みたいな話があ

って、小学校と中学校を一緒にして、その9年間で分けてやるとか、いろいろそういうことが出来るみたいな話も少し聞いています。そういうことも含めて、先進的ではないですが、そういうものに対して出来るだけ地域が声を挙げていく。そして、地域の教育を確立するという事は、やってやれないことではないという気がしています。

課題は、子育て支援をして、人がたくさん増えて、こんな数の論議をしないでいけるのが一番いいのですが、それは、とりあえずの話で、中学1年生は5人しかいないし、来年は5人くらい、その次が十何人いるのです。今の小学5年生は十何人いるのです。今、そこが、頼りになっているだけで、今の中学1年生5人、来年もまた5人全員が行っても、1桁台しかいないのです。こういうものを地域協議会として、地域の大事な問題なのだということで、具体的な課題をいろいろな人に提案していかないと難しいです。高田区地域協議会は何十億も掛けて造る会館がどうかという議論をしていますが、谷浜・桑取においては、その辺が、具体的な課題としてやらなければいけないという気がします。

【平野委員】

先程、賛同したのですが、今回は、明るい話だけにしましょうと。そしたら、安達副会長からホラ吹き大会をやりましょうと。回りまわったらまた、暗い話に戻りましたね。

【高橋会長】

暗い話ではなくて、私は逆に立派な小中学校を造ればいいのかと思いますが、どうでしょうか。

【平野委員】

今の中学校では駄目なのですか。

【高橋会長】

今、小学校、中学校が別々になっていますよね。そうではなくて、逆に、今の直江津中等教育学校ではないけど、小中一貫校で立派なものを造ればいいのか。

【平野委員】

私は別々でもいいと思います。

【高橋会長】

今、中学校を無くされたら困ってしまう。逆に存立していればいけど。

【平野委員】

そういう論理ね。

【齊藤委員】

今、小学校が合併したばかりで、また、どこかと合併するとか、そういう話をしているのでしょうか。子どもたちが動揺してしまうのではないのでしょうか。

【平野委員】

そういう難しい話は、子育てと一緒に、人を増やす方法も急には出来ないから、少し時間を掛けてやりましょうということに似ていますよね。ここで合併の話を前向きに考えて、阻止する為のことを考えましょうと言ったって、今の話、教育が絡んでいるのですよね。「教育とは」ということが分からなくなってきました。

【高橋会長】

難しいことではなく、中学校が無くなるという話をしているのです。

【平野委員】

その話だって、今、齊藤委員が言ったことに同意したのだけれど、いつ無くなるかということは決まっていませんよね。例を挙げたではないですか。ものすごく数が減ってきたけど、統合だという話をしながら、10年頑張ってきたと。統合だという話が噂で上がったとしても、実際になるのは、10年後ですよ。例を言うと、その間に、難しいのだから時間を掛けて考えましょう。ここで、ああしましょう、こうしましょうと出来ますか。私は出来ません。10年掛けてやりましょうという提案をしたのです。

【高橋会長】

安達副会長と小学校が桑取と一緒に、先生が減るということで、私たちは教育委員会に陳情して、合併して先生が減るのは困るのではないかとということで、特例で残してもらいました。何故かというと、数が減ると複式学級なのです。中学校でも数が減ると複式学級になって先生の数が減ってくるのです。そういうことが具体的にできてきている段階で、我々がどうするのだということを、今日は資料が皆さんにきちんと配られていないからかもしれませんが、もし必要であれば、次回、小学校の生徒が何人いて、今後どういう推移をしてどうなっていくのか。小学校も複式学級がある訳です。今後、中学校も複式学級になった場合、どうなっていくのかということを、みんなで真剣に具体的な問題として考えていく必要があると思うのです。今日は、資料が無い中でのフリートークでしたが、この子育て支援という柱の中で、もう少し、子どもが増えるようなことを考えながら、では、子どもの今の状況はどうなのだろうと、保育園の園児の

数も、50人規模の保育園を造っておきながら、実際、30人しかいない訳ですし、定員だけで言えば、長浜保育園や下綱子保育園はもっと多かった訳です。ですが、そういうふうには減ってきている訳ですから、少子化問題を具体的に考えていく必要があるのではないかと思います。

【安達副会長】

中学校の問題、私は、統合がいいとか言うのではなくて、中学校教育として問題があるのだということ具体的に聞こえてきているのに、放っておいていいのかなと思うのです。子どもたちがどう思っているのか聞いてみるのも1つだと思います。その聞き方としたら、どこで、誰が、どんなふうに聞けばいいのかということ、相談するとしたら、北部まちづくりセンターでいいですか。

【関川センター長】

事務局でも整理して、教育委員会に確認をしてみないと分かりません。子どもたちでするので、設問の仕方だとか、いろいろ、難しい部分もあると思います。地域協議会として子どもが参加しての意見交換会が開催できるかどうか、子どもさんが何年生になれば、自分の意見を言えるのかということも含めて、そういう場が持てるかどうかを確認してみます。

【安達副会長】

一番は、子どもたちの話を聞いてみるアンケートという形がいいのかなと思うのですが、その辺はどうなのでしょう。

【高橋会長】

では、そういうことも含めて、次回に、必要であれば、教育委員会の人たちから、場合によっては、こういう地域の教育の問題に対して、どういう考えを持っているのか。ただ、人数が少なくなって、数を合わせるだけで学校にしていくのか、やっぱり地域の特徴を生かした学校を創っていけばいいのか。子どもも巻き込んで、希望を聞きながら、あり方を考えていくということによろしいでしょうか。

【平野委員】

それと、教育委員会にお聞きしたいのだけれども、人数がどれくらいになると複式学級になるのか。

【安達副会長】

それはもう決まっています。2学年合わせて16人以下だったら複式になるのです。

【平野委員】

複式になって、複式の数はいくつになったら統合へ向かうのかということをお願いしてほしいのです。

【安達副会長】

統合というのは地域のことがあるからいろいろあるでしょうけど、複式は基準があります。

【平野委員】

どういう基準があるのですかということをお願いしてほしいのです。

【高橋会長】

事務局から教育委員会に連絡の上、来ていただいて、谷浜・桑取の川筋で小学校と中学校をどうやっていくのか。今、町場は子どもの数多くて小学校を分けるところがあるようですから。そういう点では、教育委員会自身も、より、教育を充実させるかと考えている訳ですから。私自身は、中学校も複式というのは厳しいのではないかなど、小学校で複式というのは現実にある訳ですから。

【関川センター長】

機械的に、こうなったらこうだという流れの中でやっているのか、それがはっきりしていません。

【高橋会長】

小学校は、はっきりあります。安達副会長と教育委員会に行って、教員の数の関係で、特例で1年間据え置きということをお願いしてきました。せっかく、桑取の皆さんも谷浜と合併したのに、先生の数減るのはとんでもないという意見が桑取の皆さんからもあって、お願いしてきた経過があります。

そういう認識を共有する意味でどういう恰好になれば複式になるのか、最悪の場合は統廃合という事もあり得るということが、行政としてやむを得ないということであれば、それは、その中で考えましょう。

【関川センター長】

複式と統合は別の問題になるかもしれませんが、共通認識ということを知ることが、事務局で確認させていただくということによろしいでしょうか。

(意見なし)

では、次回の協議会の中でお示し出来るかということもありますので、会長と御相談

させていただきます。

【高橋会長】

では、皆さんで、もう少しここは確認しておいたほうが良いということがあればお願いいたします。

【齊藤委員】

教育委員会から来ていただいて、今後、複式が良いのか、統合が良いのかということですが、市にしたら、統合したほうが経費的にはいいと思うので、逆にそちらへ持っていくのではないですか。

【小林奎一委員】

さっき、言われたように、機械的にいくのか、ある程度、地域性の考慮もあるし、分からないから、聞いてからだね。

【齊藤委員】

今回、小学校の統合の時に、市の教育委員会から来てお話をした時に、当然、今言ったように、現状の子ども的人数、それから、これから保育園に入る人数は出ているはずなのです。そういった中で、今の複式の学年がそろそろ出るのだという話。その時に、こんな状況であれば、当然、中学校も定員が危ぶまれるのではないかと言ったけど、その点については何も触れなかったのですか。

【安達副会長】

あの時は、とりあえず、小学校の統合が先ですから。その話は出さないでくださいということでした。

【齊藤委員】

結局、市のほうも、持っていく方向ではなかったのですか。

【高橋会長】

行政ではそういう議論があるけれど、最近、文部科学省も小中一貫教育の問題やへき地教育の在り方の問題で議論しています。6・3制そのものがどうなのかということで、小学校の6年間と中学校の3年間を合わせて、先般、中学校の会議の話の中でも、2年単位で区切って教育をするという教育特区の制度も出来ているという話をしていました。そういう枠組みというものはあるのかもしれませんが、それが、谷浜・桑取に当てはまるのか分かりませんが、湯沢町は、町単位で小学校を1つ、中学校を1つにしたのです。そういう町村もあるわけです。今後、上越市がどういう動きをするのかということも、安

塚のほうでは、全部合併した訳です。谷浜・桑取だけではなくて、この種の問題というのはあちこちにあると思います。ですから、私たちもそういう問題意識を持って、これから考えていかないといけない。ただ単に数だけいえば、柿崎の山がどうだとか、名立のほうはどうだとかという議論に流される気がします。ぜひ、地域協議会としても、早めに、地域の皆さんが盛り上がりを作っていけばいいのではないかと思います。

【齊藤委員】

奥にいる者としたら、先程も言ったとおり、せめて、長浜、有間川止まりになるような環境が作れないのかと思います。

【平野委員】

お金の問題だったら、小さくてもいい、先生の数を減らしてもいいから、とにかくこちら辺に小学校、中学校くらいは置いてほしいという気持ちをまとめれば、良いのではないのでしょうか。

【齊藤委員】

今日の議題の「谷浜・桑取区における子育て支援について」というのは、どうもっていったらいいのか分からないですね。

【高橋会長】

最初、子育て支援というのは、子どもがたくさん増えて、移住してきて増えるのもいいし、地域に若者が定住して子どもが増えるのも、いろいろな意味で子育て支援というのは、ある意味、保育園が統合して出来たというのは、それなりの意味があるのではないですか。保育に関してはそれなりの光が見えた訳です。

子育て支援という柱は、数年前に安達副会長が提案された時から、息の長い地道な話だけれども、桑取・谷浜にとっては、本当に死活問題に近い大事な問題です。この子育て支援の柱を具体的に出来るものは具体的にしていけばいいし、長期的にみんな考えていくのであれば、長期的な事も考えながらいけば良いと思います。特に、空き家の問題は、当時、市にも空き家情報をきちんと出すべきではないかということで、地元の市議会議員も関心を持っていて、地域の報告会で、あちこちの空き家情報、やり方なども報告していました。空き家があるからといってすぐ誰かに貸せるかといったら、持ち主は安易に貸せないという話もあります。町場からこちらに住み移った二家族もいる訳です。そういうものを参考にして、何とか、明るい話に結び付けていければと思います。

時間もだいぶ過ぎてきましたので、よろしいでしょうか。

(はいの声あり)

では、次回、教育委員会からすぐに来ていただかなくてもいいので、さっき言ったように、谷浜・桑取の生徒の推移や、複式学級というのはこういう考えでやっていて、統廃合というのはどういう時に考えられるのか、市の教育委員会の一般的な考え方を、資料として用意していただければ、それをみんなで見ながら協議し、必要であれば来ていただくということにしたいと思います。

では、「その他」事務局からお願いします。

【星野主任】

御協議ありがとうございました。次回の協議会についてですが、教育委員会に関しましては、事務局で連絡を取らせていただいて、次回までに出来るかということも含めて、相談させていただきたいと思います。

このほか、たにはま公園の管理状況について都市整備課からお話を聞きたいということで、そちらに関しての説明と、行政改革推進課から第5次上越市行政改革大綱案についてと、公の施設の使用料の見直しについての説明と意見交換を行いたいということです。事務局案といたしましては、11月21日金曜日か、11月27日木曜日に協議会を開かせていただきたいと思いますと思っておりますが、日程について御協議いただきたいと思います。

— 日程調整 —

【高橋会長】

では、11月21日金曜日ということでお願ひします。

たにはま公園の管理状況はどうなっているのかという問題と、上越市の行政改革大綱についての説明を受けながら、時間があれば、教育委員会の資料を提示いただいて、これから考えていきたいと思ひます。

【平野委員】

思い出したのだけれども、くわどりゆったり村の状況について、長い間論議してきましたが、その後、どうなのかということが、分からないのですが、市から、どうなったのかという提案はないのでしょうか。やってもらいたいです。

【高橋会長】

くわどりゆったり村の状況、どういうふうやっていくかは、市で分かる状況報告だけしていただきたいと思います。

では、ゆったり村の運営状況を付け足してもらえますか。経営まで立ち入っているのか、実際の運営がどうなっているのかも含めてお願いします。

他に、事務局からありますか。

【星野主任】

ありません。

【高橋会長】

では、これで会議を終了します。ありがとうございました。

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。